

【NRCLレポート】 パソコン・スマートフォンなどの情報機器 Part 1. 情報機器の利用率

2016年2月調査結果

◆NRCLレポート

全国15～79才男女1,200名を対象に、2016年2月に「**パソコン・スマートフォンなどの情報機器**」の調査を実施しました。

本調査はインターネット調査ではなく、調査員による**訪問留置法**で実施しており、パソコンやインターネットを利用していない人も対象に含まれていますので、一般の方々のパソコンやスマートフォンの利用率を調べることができます。

本レポートは、2014年2月、2015年2月の過去調査と比較することで、この3年間の変化に注目してみました。

調査結果は、「Part1:情報機器の利用率」（本篇）と「Part2:インターネットで行っていること」の2つに分けて紹介していきます。

Part1は、個人が利用している機器（個人利用率）やお宅で保有している機器（世帯保有率）についての結果紹介です。

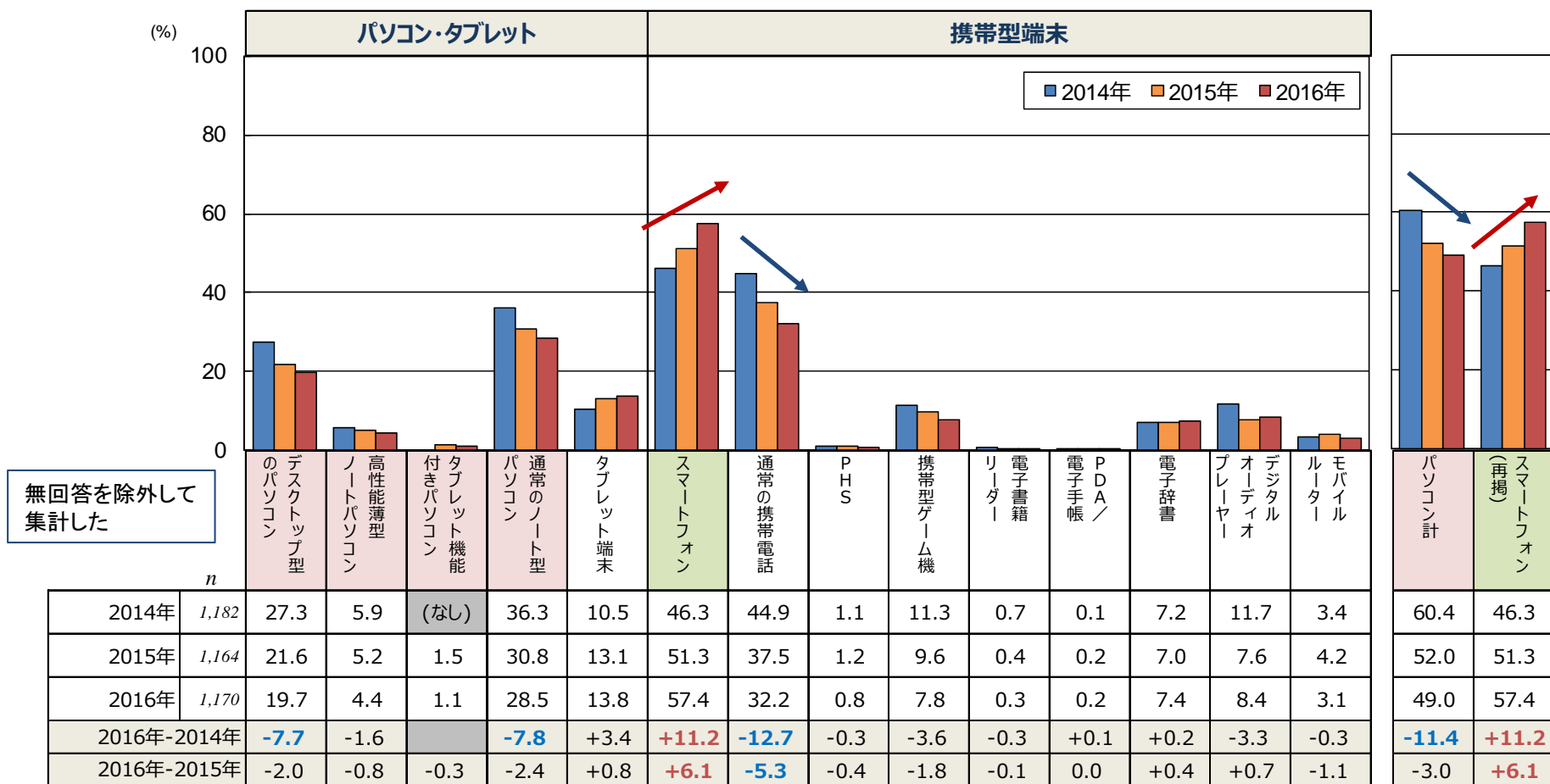
◆Part1の主な結果は以下の通りです。

- 「デスクトップ型のパソコン」「通常のノートパソコン」の利用率が、2014年より8ポイント（p）減少。
- 「スマートフォン」が2014年46%→2015年51% →2016年57% と順調に増加した一方、「通常の携帯電話」は45%→38%→32%と13p減少して、2016年はスマートフォンとの差が25pまで拡大した。
- 2014年では「パソコン計」が優位だったが、2016年には「スマートフォン」の利用率（57%）が「パソコン計」（49%）を上回った。年代別でみると、「パソコン計」が「スマートフォン」より高いのは60代以上のシニア層のみである。
- スマートフォンの利用が増える一方で、「携帯型ゲーム機」「デジタルオーディオプレーヤー」は減少傾向で1割を切った。
- 「コンパクトデジタルカメラ」「固定電話」「FAX」「プリンター」は、2014年より5p以上減少。
- 「電子書籍リーダー」「PDA/電子手帳」は、1%未満で変化はない。

- ◆情報機器の個人利用率について、2014年、2015年、2016年の3期の時系列変化をみてみた。
- ◆パソコン・タブレットでは、2014年から2016年の変化は、「デスクトップ型パソコン」「通常のノート型パソコン」が8p減少した。「パソコン計※」をみると、2014年60%→2015年52% →2016年49%と減少し、50%を切った。「タブレット」は大きな動きはなく、14%である。
- ◆携帯型端末では、「通常の携帯電話」は2014年45%→2015年38% →2016年32% と減少し、「スマートフォン」は46%→51% →57% と増加して、「通常の携帯電話」を25pも上回った。さらに、「スマートフォン」の利用は「パソコン計」(49%)も上回っている。一方、「電子書籍リーダー」「PDA/電子手帳」は1%未満と少なく、「携帯型ゲーム機」「デジタルオーディオプレーヤー」も減少傾向で1割を切っている。

■ 2014年・2015年・2016年調査の比較

あなたが現在、ご利用になっている機器を、すべてお知らせください（複数回答）



※「パソコン計」は、「デスクトップ型のパソコン」「高性能薄型ノートパソコン」「タブレット機能付きパソコン」「通常のノート型のパソコン」のいずれかを利用している割合で、2014年は「ネットブック」も含む

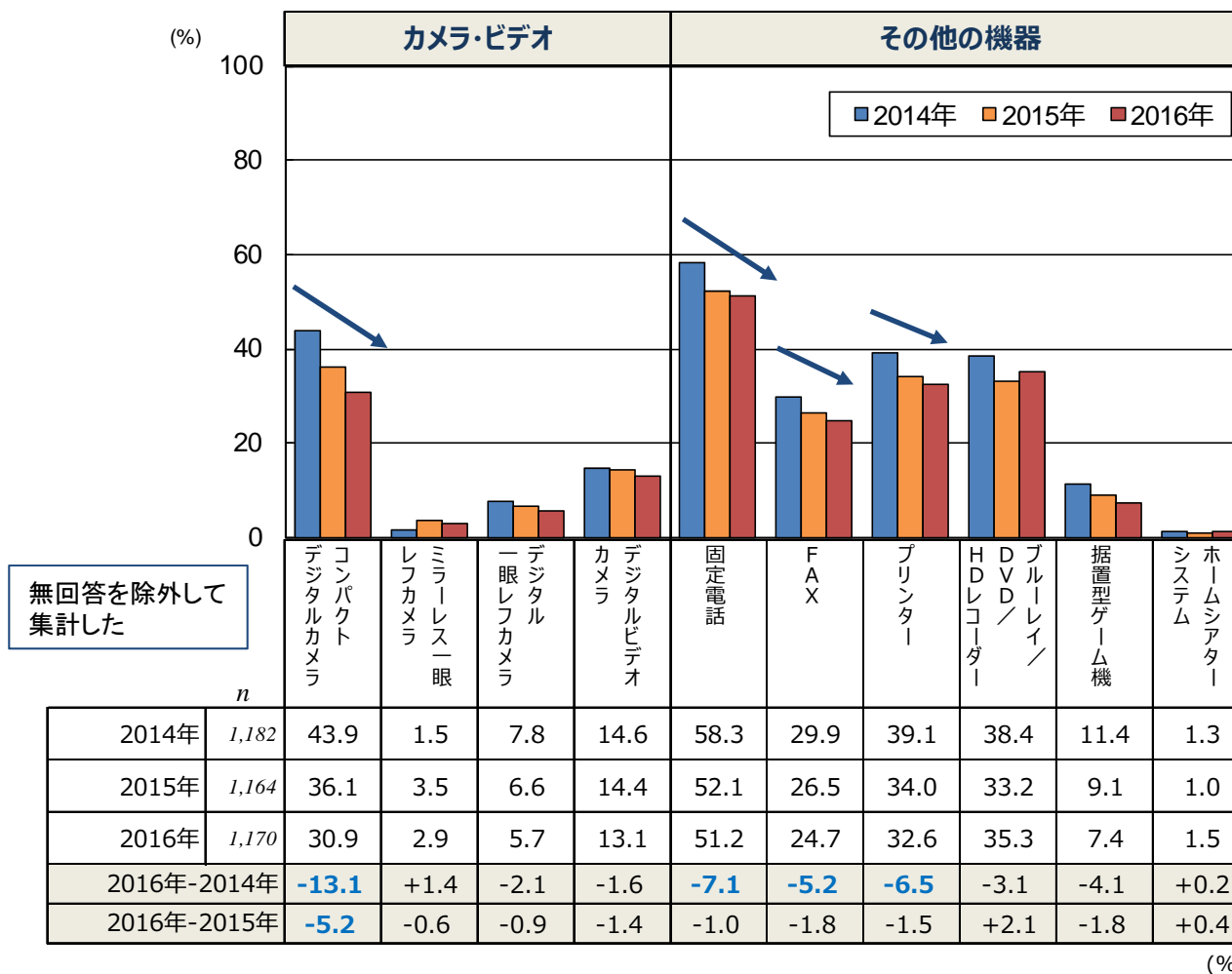
(%)

(%)

- ◆カメラ・ビデオでは、「コンパクトデジタルカメラ」が2014年44%→2015年36% →2016年31%と、2年間で13%の減少。それ以外の「カメラ・ビデオ」では大きな変化はみられない。
- ◆その他の機器では、「固定電話」「F A X」「プリンター」が、2014年より5p以上減少した。

■ 2014年・2015年・2016年調査の比較

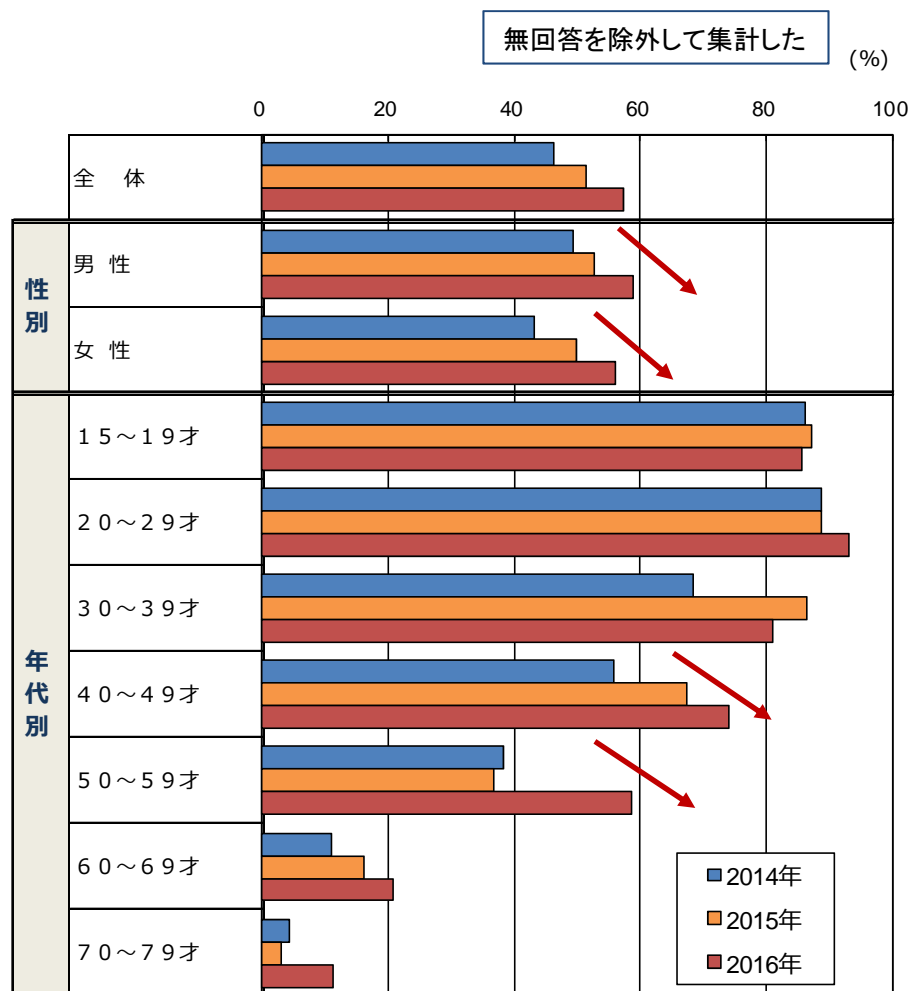
あなたが現在、ご利用になっている機器を、すべてお知らせください（複数回答）



(%)

- ◆「スマートフォン」の利用率について、性別・年代別でみてみた。
- ◆2016年は男性59%に対し、女性は56%とほぼ同じ。年代別で見ると、15~39才までは80%を越えているが、60代では21%、70代では11%であり年代差が大きい。
- ◆時系列変化では、2014年→2016年で男女とも順調に増加。年代別では40-50代の増加が20p前後と大きい。

■ 性別/年代別スマートフォン利用率

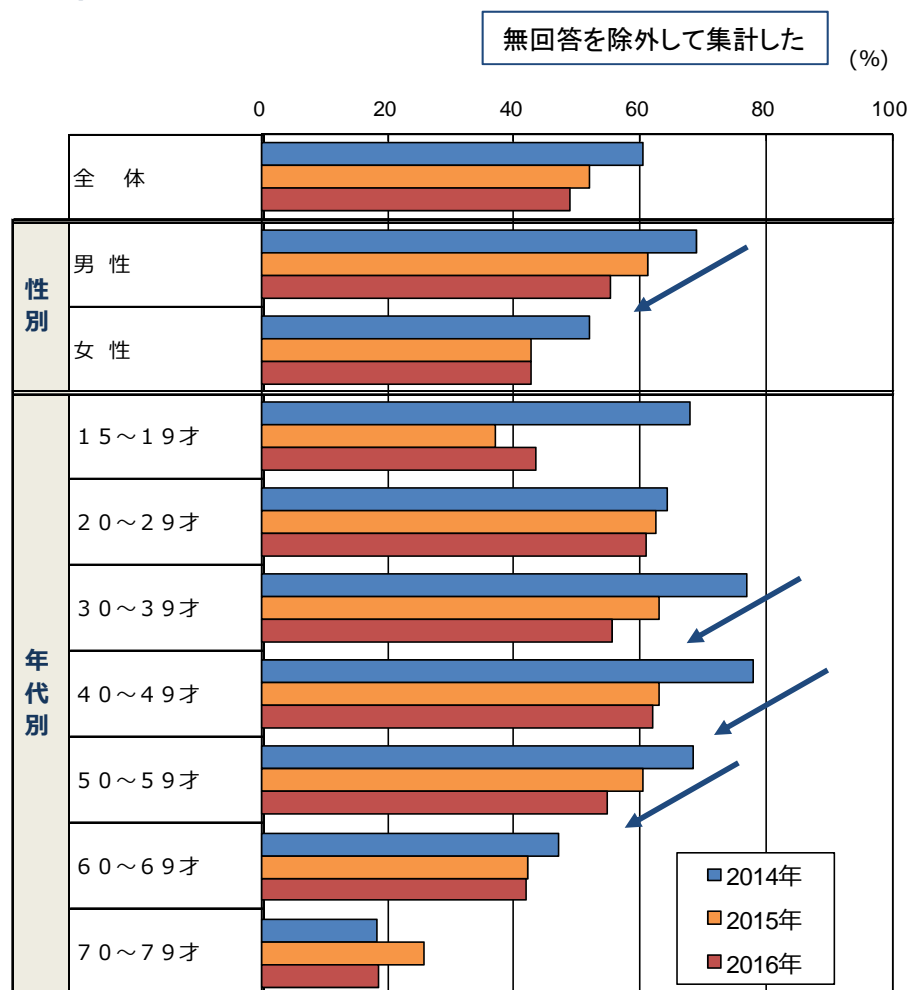


2014年	n		%			2014年と2016年の差	2015年と2016年の差
	2015年	2016年	2014年	2015年	2016年		
1,182	1,164	1,170	46.3	51.3	57.4	+11.2	+6.1
583	583	574	49.4	52.7	58.9	+9.5	+6.2
599	581	596	43.2	49.9	56.0	+12.8	+6.1
72	70	69	86.1	87.1	85.5	-0.6	-1.6
151	141	146	88.7	88.7	93.2	+4.4	+4.5
196	192	189	68.4	86.5	81.0	+12.6	-5.5
210	208	211	55.7	67.3	73.9	+18.2	+6.6
180	180	179	38.3	36.7	58.7	+20.3	+22.0
215	209	215	11.2	16.3	20.9	+9.8	+4.7
158	164	161	4.4	3.0	11.2	+6.7	+8.1

(注)
全体より5%以上高い
全体より5%以上低い

- ◆「デスクトップ型のパソコン」「高性能薄型ノートパソコン」「タブレット機能付きパソコン」「通常のノート型のパソコン」のいずれかの利用率を「パソコン計」として、性別/年代別でみる。(2014年は「ネットブック」も含む)
- ◆性別で見ると、2016年は男性55%、女性43%で男性の方が利用率が高いが、2014年からの変化では男性の方が減少が大きい。
- ◆年代別では、20～50代は5割超であるが、2014年からの変化で見ると30～50代では10p以上減少した。

■ 性別/年代別パソコン計利用率

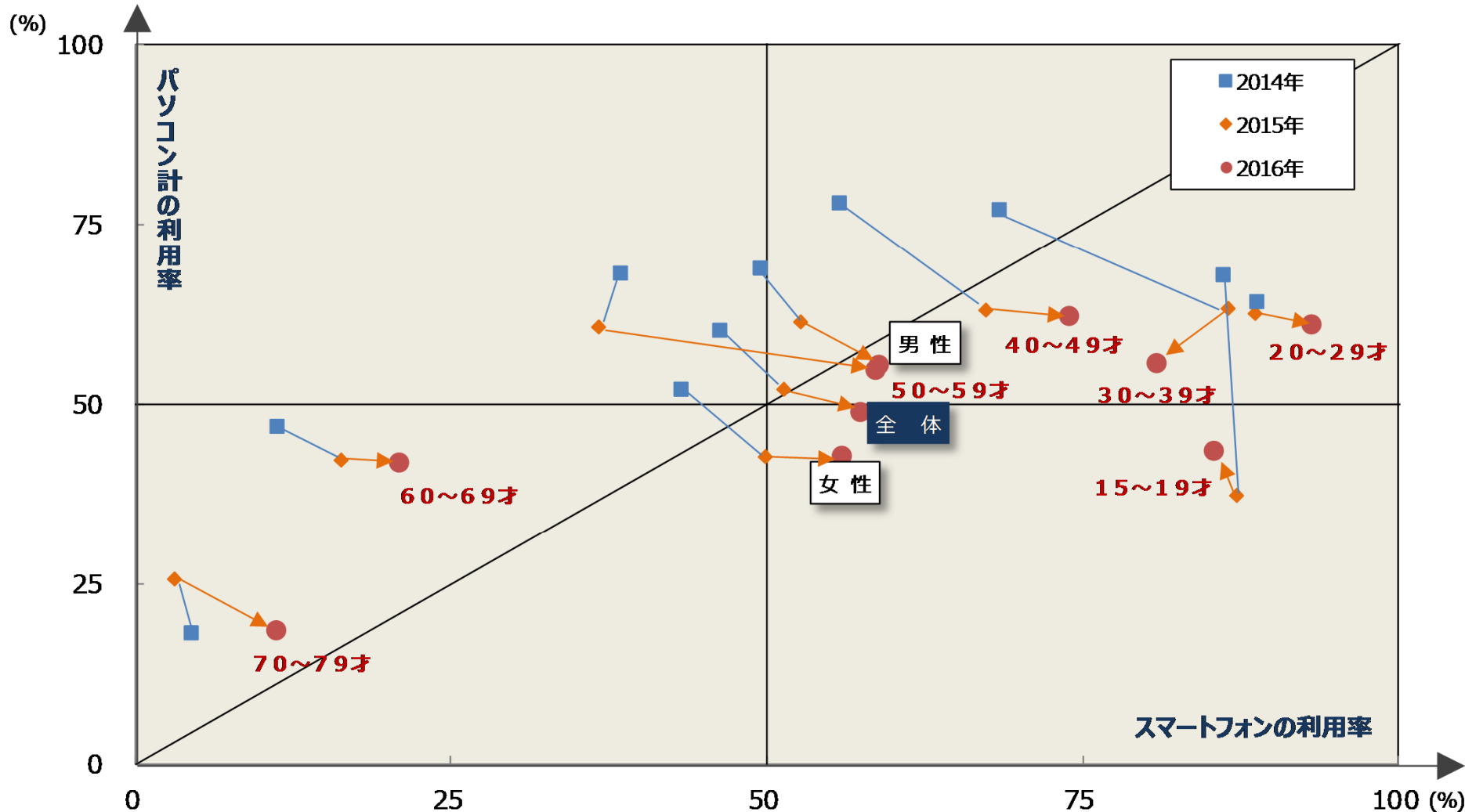


性別	年代別	n			%			2014年と2016年の差	2015年と2016年の差
		2014年	2015年	2016年	2014年	2015年	2016年		
性別	全体	1,182	1,164	1,170	60.4	52.0	49.0	-11.4	-3.0
	男性	583	583	574	69.0	61.2	55.4	-13.6	-5.8
	女性	599	581	596	52.1	42.7	42.8	-9.3	+0.1
年代別	15～19才	72	70	69	68.1	37.1	43.5	-24.6	+6.3
	20～29才	151	141	146	64.2	62.4	61.0	-3.3	-1.5
	30～39才	196	192	189	77.0	63.0	55.6	-21.5	-7.5
	40～49才	210	208	211	78.1	63.0	62.1	-16.0	-0.9
	50～59才	180	180	179	68.3	60.6	54.7	-13.6	-5.8
	60～69才	215	209	215	47.0	42.1	41.9	-5.1	-0.2
	70～79才	158	164	161	18.4	25.6	18.6	+0.3	-7.0

(注)
 全体より5%以上高い
 全体より5%以上低い

- ◆横に「スマートフォン」、縦に「パソコン計」として、2014年、2015年、2016年の3期における全体と性別/年代別の利用率をプロットした。
- ◆全体では、2014年は「パソコン計」が「スマートフォン」の利用率を上回っていたが、2015年はほぼ同じになり、2016年は「スマートフォン」が増加して「パソコン計」を上回った（「スマートフォン」57% vs 「パソコン計」49%）。
- ◆30-50代では2014年はパソコンが優位だったが、この2年間で「スマートフォン」が増加し、2016年は「パソコン計」の利用率を上回った。しかし60代以上は依然として「パソコン計」が「スマートフォン」を上回る。

■ スマートフォン vs パソコンの利用率



- ◆ 世帯財を中心に自宅で持っている機器の保有率（世帯保有率）と個人の利用率を比較してみた。
- ◆ 「パソコン計」「デジタルカメラ計」「FAX」「プリンター」は、2014年より世帯保有率が5p以上減少した。
- ◆ 世帯保有者の中で利用している率を算出すると（個人利用率÷世帯保有率）、「パソコン計」は約7割の利用率で、2014年より6p減少している。
- ◆ 「固定電話」は、世帯保有率ではあまり変化がないが、世帯保有者の中での利用率は2014年より8p減少している。
- ◆ 「FAX」は、2016年世帯保有率が46%だが、世帯保有者の中での利用率は54%にとどまる。
- ◆ 「ホームシアター」は、世帯保有率が2%と低く、時系列でも大きな変化がみられない。

■ 2014年・2015年・2016年調査の比較

お宅で、お持ちになっている機器をすべてお知らせください（複数回答）

			パソコン計	デジタルカメラ計 (コンパクト+ミラーレス+一眼)	固定電話	FAX	プリンター	HDDレコーダー DVDレコーダー ブルーレイ	据置型ゲーム機	ホームシアター	
無回答を除外して集計した											
n											
① 世帯保有率	2014年	1,193	77.7	69.7	77.7	50.9	60.3	50.8	27.6	1.8	
	2015年	1,194	73.2	65.0	74.9	46.5	55.7	49.0	21.9	1.8	
	2016年	1,192	68.5	63.8	76.0	45.8	53.9	50.8	22.8	2.3	
② 個人利用率 (再掲)	2014年	1,182	60.4	48.2	58.3	29.9	39.1	38.4	11.4	1.3	
	2015年	1,164	52.0	40.5	52.1	26.5	34.0	33.2	9.1	1.0	
	2016年	1,170	49.0	35.6	51.2	24.7	32.6	35.3	7.4	1.5	
②/①	2014年		77.7	69.1	75.0	58.9	64.9	75.6	41.4	72.1	
	2015年		71.0	62.4	69.6	57.1	61.1	67.7	41.5	56.0	
	2016年		71.5	55.9	67.4	53.9	60.5	69.4	32.2	61.9	

(%)

調査方法

- NOS（日本リサーチセンター・オムニバス・サーベイ）
- 調査員による個別訪問留置調査

調査対象

- 全国の15～79歳の男女個人 1,200人
※エリア・都市規模と性年代構成は、日本の人口構成比に合致するよう割付をおこなった

抽出方法

- 毎月200地点を抽出、住宅地図データベースから世帯を抽出し個人を割当て

調査期間

- 2014年2月（2014/2/5～2/17）
- 2015年2月（2015/2/4～2/16）
- 2016年2月（2016/2/3～2/15）

NOS（日本リサーチセンター・オムニバス・サーベイ）について

調査パネルを使ってインターネットで簡単に情報収集できる時代になりましたが、NOSでは、40年以上にわたって、

①調査員を使った訪問留置、②パネルモニターではない毎回抽出方式で調査を継続しており、代表性のある信頼の高いデータを提供しております。

NOSは、毎月1回定期的実施する乗り合い形式（オムニバス）の全国調査です。

毎回ランダムに決められた200地点にて、対象となる方に調査員が協力を依頼してアンケートを回収します。

性年代構成を日本の人口構成比に合わせているため、全体結果は日本を代表する意見としてそのままご覧になることができます。

インターネット調査では、回収が難しい60代以上の対象者やインターネットを使っていない人の実態や意識を分析するのにも有用な手法と言えます。

《 引用・転載時のお願い 》

本レポートの引用・転載の際は、下記連絡先にメールにて掲載のご連絡をお願い致します。

連絡先：日本リサーチセンター広報室 メール：information@nrc.co.jp

**掲載では必ず当社クレジットを明記していただき、
調査結果のグラフ・表をご利用の場合も、データ部分に当社クレジットの掲載をお願い致します。**